

事業所における自己評価結果						
事業所名		公表				
事業所名		キッズハウスのぞみ立山				
		公表日 2026年1月30日				
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・個別の空間を必要とする児童にはパーテーションを利用して仕切っている		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・児童に寄り添った支援を行うために、マンツーマンの対応を実施している	・送迎スタッフの確保なども検討していく	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・その日の予定を確認できるように写真や文字で掲示している		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日消毒と清掃を行っている		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・更衣室や学習室などを適宜個室として使用している		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・モニタリング時に要望等を確認して、改善に努めている		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・ミーティング等で出た意見を検討しながら素早い反映を心がけている		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・第三者評価は受けていない		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月のぞみ立山・上市の全体会議では、社内研修やケース検討を行っている ・外部の専門的な研修や支援力の向上研修を受講している	・今後も法定研修等を受講し、スタッフが役割を担っていく仕組みを作る	
適切な支援の	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・年度ごとにHPに公表している		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・各児童担当が児童発達支援管理責任者の指導のもと個別支援計画の作成に関わり、事業所内支援者会議を行っている	・今後も継続していく	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・適宜事業所内支援者会議を行っている	・今後も継続していく為にも計画的に行っていく	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・のぞみシートの「生活」「運動」「学習」の3分野で独自のアセスメントを作成して活用している	・より専門的なアセスメントの視点を持つためにも、スタッフのスキルアップを目指す	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・5領域を盛り込んだ計画を策定している ・ライフステージに沿った計画を意識している		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・担当者を決めて、ミーティングで週次を検討している	・今後もミーティングで話し合いながらチームで検討していく	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・5領域を盛り込んだ行事計画を作り、担当者を中心としたプログラムを決めていく	・5領域を意識しながら振り返りを次に生かした継続的な支援を目指す	

提 供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	・意図をもって組み合わせを行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・受け入れ前に行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・その日に解決すべきことは迅速に対応している ・AIボイスレコーダーを導入し、記録や要約の効率化を図った	・AIボイスレコーダーの活用定着と効率化を図る
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・ケア記録を記入している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	・モニタリングにもAIボイスレコーダーを導入し、記録や要約の効率化を図った	・AIボイスレコーダーの活用定着と効率化を図る
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○	・地域の作品展示へ出展や事業所周辺の清掃活動、地域のイベントの参加などを通して、地域交流の機会も積極的に設けている	・計画的な作品制作や、こどもたちの役割など模索していく
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	・行事への参加や外出先、工作的材料選びでは、写真や実物を提示して選びやすく工夫して、こどもの自己選択・自己決定を大切にした支援を行っている	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	・担当スタッフが参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	・FAXや便りのやりとり等で送迎時間や行事の情報共有を行っている ・送迎時のヒヤリハットを共有しながら、送迎場所の検討等を協議した	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	・保護者や相談支援専門員さんを介したり、必要に応じて事業所間で電話等での情報共有を行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	・のぞみに見学に来てもらい情報共有を行うなど柔軟に対応している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	・地域の児童発達支援センターが設置されていない	・地域の児童発達支援センター設置に向け、自立支援協議会等に参加し検討を行っている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	・地域の施設を利用したり、社会福祉協議会主催のイベントに参加している	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	・部門部長が自立支援協議会こども支援部会のリーダーを担っている	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	・スマイル・ハート主催の講演会を開催した ・地域の保護者会の案内やにこにこ相談会のお知らせをした	
運 営 方 法	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	・契約時に説明を行っている	・規程や計画等をクラウドで共有して、保護者が閲覧可能にする
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	・面談やサービス等利用計画に基づいて作成している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	・計画を説明しながら同意を得ている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>		・保護者からの相談には電話やメール、面談等で都度迅速に対応し、安心して相談できる体制に努めている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	<input type="radio"/>		・保護者対象の講演会を企画し、たくさんの方に参加いただいた ・保護者交流会を行い、進学についての相談など有意義な保護者同志の交流ができた	・保護者のニーズもあるので、年に2回程度の保護者会実施を計画する ・きょうだい同士も参加いただけるような内容の検討
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>		・随時相談や申し入れを受け、迅速な対応に努めている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>		・年に4回「のぞみ便り」を発行して情報発信をしている ・随時HPでブログも更新している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>		・地元の社会福祉協議会との行事は計画に留まっている	・社会福祉協議会との合同行事の実施の提案
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>		・各種マニュアルは策定されているが、保護者への周知力が弱い	・規程や計画等をクラウドで共有して、保護者が閲覧可能にする
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>		・年に数回、活動プログラムに避難訓練を取り入れて実施している	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・安全計画を策定している	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>		・安全計画を策定している	・規程や計画等をクラウドで共有して、保護者が閲覧可能にする
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		・月に1度スタッフ全体会で各事業所のヒヤリハット報告を行っている ・再発防止に向けた見直しも適宜行っている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>		・事業所内で虐待防止研修を行っている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	<input type="radio"/>			・該当する方の登録が今後ある時は、慎重かつ丁寧に対応していきます